



令和3年10月5日

No.77号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸 哉

<児童数 196名>

TEL 623-6019

～ 10 / 1 (金) 10:00 校内TV放送開始 ～ **創立記念式 厳粛な中にあたたかさ** ～心温まる記念事業協賛金に心から御礼申し上げます～

令和3年度創立110周年記念式。

先週10月1日(金)10:00、校内TV放送が始まりました。開会の言葉、学校長の式辞に続き、向田敏奨学会長様、矢野秀弥同窓会長様からのご祝辞を頂戴いたしました。各教室での厳粛な空気が放送室にも伝わってきます。



続いて、創立記念事業実行委員長の矢野同窓会長様から、記念事業に係る目録をいただきました。このコロナ禍における深刻な経済状況の中で、地域の企業や事業者の皆様始め、地区町内会様、同窓会員様、奨学会員様、歴代の校長先生方等々、心温まる多大な記念事業協賛金を賜り、心から厚く御礼申し上げます。第四小の教育振興のために有効に活用させていただく所存です。

また、196名のいちょうの子を代表して、6年向田菜乃さんが「お祝いの言葉」を述べました。明るく堂々と、しっかりした口調でのあいさつに大きな拍手。



向田奨学会長様



矢野同窓会長様



児童代表 6年向田菜乃さん

校長式辞

今日は、とてもうれしい日です。

本日、ここに、同窓会会長 矢野秀弥様、奨学会会長 向田敏様のご臨席のもと、創立110周年記念式を迎えられますことは、196名のいちょうの子どもたちと教職員の大きな喜びであります。先ずもって、心より厚く御礼申し上げます。学校の誕生日にあたり、ここに集う皆さんと一緒に、心に留めて大切にしてくださいたいことを、二つお話しします。

一つ目は、本校のシンボルである「大いちょう」のことで、本校は、明治44年の創立以来、110年という長い年月とともに、多くの皆さんが「大いちょう」のもとに集い、学んできました。校歌にあるとおり、「大いちょう」は、私たちの「希望のしるし」であり「母校のほこり」であります。

では、「希望のしるし」「母校のほこり」とは、いったい、どういうことなのでしょう。

こんな文章が見つかりました。昭和 36 年に卒業した川越美保子さんの文章です。題名は「大いちょう」です。『大いちょう 四小の思い出として、真っ先に頭に浮かぶのは、校舎西側にそびえ立ち校歌にも歌われているいちょうの大木です。当時はそのいちょうの北側に生徒用昇降口があり、私たちは毎朝その巨木を眺めながら登校しました。秋になると木になったぎんなんを分けてもらい、私は病床の母にその実を届けて秋の訪れを知らせるのが、子供心に嬉しかった記憶があります。四小は音楽活動も盛んで鼓笛隊の練習にも励みました。・・・今思えば、いちょうの大木はいろいろなできごとを見守ってくれていました。四小は私にとって楽しく伸び伸びと過ごせた思い出深い学び舎です。』と綴られています。思いで深い「学び舎」、そして真っ先に浮かぶ「大いちょう」。時の流れに風化せず、心の中にずっと生き続ける、そういう「大いちょう」だからこそ、「希望」であり「まもり」なのかもしれません。皆さんは、どう感じ、どう受け止めますか。

また、「大いちょう」の樹齢は、おおよそ 230 年くらいといわれています。学校が誕生するさらに前から見守ってくれていたことになります。230 年前と言えば「江戸時代の後期」です。まだ、ちゃんまげを結って、刀を差した人がいた頃です。忍者もいたかもしれません。そんな時代を私たちの「大いちょう」は見てきたことになります。学校の倍以上の長い年月を厳しい風雪に耐え、見守ってくれたからこそこの「希望のしるし」であり「母校のまもり」なのかもしれません。この大切な「大いちょう」の下で学んだ同窓生は、なんと 15800 名を越えます。ですから、校歌にも歌われている「大いちょう」を大切にしたいと思うのです。と同時に、「大いちょう」を大切に思っているすべての同窓生である「かつてのいちょうの子」皆さんをも大切にしたいと思うのです。同窓生の皆さんには、陰になり日なたになり、いつも支えていただいています。願いの一つ目は「大いちょう」とともに「いちょうの子のつながりに感謝しながら、いちょうの子の絆を大切にしたい」ということです。

二つ目です。今、「おめでとう 110 歳、校歌朗読プロジェクト」で、校歌のことを深く学んでいます。「きよいこころの花束をもとめて、ここに今日も学ぶ」・・・学校日より「いちょう」にも綴りましたが、「きよいこころの花束」とは、皆さん一人ひとりのよさではないかと青山友紀アナウンサーがお話しになりました。私も、その通りだと思っています。一人ひとりのよさが一輪の花束で、毎日毎日その花束を贈り合う、お互いを尊重し、よさの花束を贈りたい、受け取りたい、そう強く願います。皆さんの先輩である「いちょうの子」も、「きよいこころの花束」をもとめて、毎日学んできました。そして、これまで、ずっと先輩の姿を見ながら受け継いできた「いちょうの子」がいたからこそ、第四小学校の良さが守られてきたのです。人は変わっても、変わらない『大切な心と形』。二つ目の願いは、「きよいこころの花束をもとめて学ぶ」という伝統をしっかりと受け継いでゆこうと言うことです。

世界を揺るがすコロナ禍の中で、たくさんの方の困難が生じていますが、長い年月の厳しい風雪に耐えながら、さらに緑を増した生命力溢れる「大いちょう」のように、はつらつと困難に立ち向かい、「絆」と「伝統」を大切にしながら、より豊かな学びを創り続けてゆきましょう。

結びになりますが、本日ご臨席をいただきました両会長様始め、同窓会、奨学会、第四地区の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和三年十月一日 山形市立第四小学校長 日高 伸哉

～ おめでとう 110 歳 校歌朗読プロジェクト④～ 心に響いた“校歌朗読”

各学年教室・キャプテンルームで朗読披露 ～感動・・・青山友紀アナウンサーも涙！！～

児童代表の言葉に続き、いよいよ校歌朗読が始まりました。7名の心のこもった素晴らしい朗読に魅了され、感動に浸る時間となりました。一人ひとりの自信に満ちた表情と朗読表現の高まりに感無量。矢野同窓会長様も絶賛でありました。

7人の朗読を通して、創立 110 周年への想いが、より確かなものになりました。



5年志緯さん 5年葵さん 6年湊太郎さん 6年日菜さん 5年祐太さん 6年利椰さん 6年楓音さん